



淀姫  
つよひめ

通信

平成二十九年九月五日

皇紀 26777年  
(西暦 2017年)  
第153号

発行：淀姫神社社務所  
〒859-4501  
松浦市志佐町浦免632  
TEL・FAX 0956-72-0653

ちょっと涼しくなつてきました

## 残暑も終わりそうです

これを書いているのは九月五日です。

九月に入つてからは朝晩ずいぶん涼しくなり、日中の気温もやや低くなり始めました。そろそろ厳しかつた残暑も終わる気配を見せて います。だいぶ過ごしやすくなつてきました。皆さまにはいかがお過ごしでしょうか。

暑かつた夏に受けた体のダメージが出てくる季節です。体がだるかつたり、気力がわかなかつたりと、夏ばての症状が出てきたりします。そういうときには、十分な栄養を摂つて、体を休めることも大切です。実りの秋に向けて、体調を整えていきましょう。



◆「世界」を生み出す神さまたち  
まずは『古事記』からのご紹介。

天御中主神に続いて次に高天原に現れたのは、「高御産巣日神（たかみむすびのかみ）」といふ神さまです。

この高御産巣日神は、名前の中に「産靈（むすび）」という言葉があります。これは日本語の「結ぶ」と通じており、高御産巣日神はこの世界を「結ぶ」神さまで、『すべてのものを生み出し生成する力』そのものです。

高御産巣日神に続いて高天原に現れたのは、「神皇産靈神（かみむすびのかみ）」という神さまです。こちらもその名に「産靈」という言葉があるように、『万物を生成する働き』そのものです。

これは大和朝廷が平安時代に編纂した『正統な歴史書』とされている『古事記』でも『日本書紀』でもほぼ共通した記述です。

### ◆高御産巣日神が皇祖神？

天照大神が『最高神』またはこの国の『主神』、そして『皇祖神』として祀られたのは、大和朝廷が支配を強めてからのこと、おおよそ天武天皇の御代、飛鳥時代あたりからと いう説が有力です。

しかし、その時代よりもあとに書かれた『日本書紀』の第九段においては『皇祖高皇產靈尊』という記述もあり、高御産巣日神ははつきりと『皇室の祖靈神』として扱われています。

# 神社うんちく帖

さて、今回も前回の続きとして、神さまたちのお話です。「天御中主神」が現れてから、神さまたちが次々とお出ましになります。

### ◆「高御産巣日神」は実は最高司令官

『古事記』を紐解いていくと、高御産巣日神はのちの物語の中にもちよくちょく現れます。

なかでも、かの有名な「天孫降臨」の際には、

天照大神とともに高御産巣日神（別名・高木神）が高天原の神さまたちと話し合い、最終的に天津日高日子番能邇邇藝命（あまつひこひこひこほのににぎのみこと）いわゆる「ニギノミコト」を葦原中國（日本）に遣わす詔（みことのり・命令）を出します。

つまり、高御産巣日神は高天原の最高司令官だつたりします。